

科学者委員会・男女共同参画分科会（第23期・第3回）議事要旨

- 1 日時 平成27年4月24日（金）10:00～12:00
- 2 場所 日本学術会議 第5-B会議室（5階）
- 3 出席者 井野瀬久美恵委員長、清水誠幹事、伊藤公雄委員、上林憲雄委員、神尾陽子委員、塩見美喜子委員、萩原一郎委員、藤井良一委員、松尾由賀利委員、江原由美子委員、戸部博委員

【配付資料】

資料1 男女共同参画分科会第2回議事要旨案

資料2 内閣府男女共同参画局長依頼「科学者コミュニティにおける政策・方針決定過程への女性の参画を拡大する方策の審議について」関係資料

資料3 提言「第4次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方」について－内閣府からの審議依頼に対する回答に代えて－（試案）

4 議題

（1）内閣府からの審議依頼に対する回答への対応について

- ・内閣府より審議依頼を受けているのは「科学者コミュニティにおける政策・方針決定過程への女性の参画を拡大する方策」。依頼事項に対象を絞って議論すべき。また、報告「学術分野における男女共同参画促進のための課題と推進策」を踏まえて提言しなければならない。
- ・提言は、短期と長期の二段構えにしようと考えている。
- ・具体的な施策も1～2例記載した方がよい。学協会より取組について男女共同参画分科会へ報告することを義務付けてはどうか。
- ・男女共同参画のための施策はこれまでもいろいろ考えられてきたが、うまくいかない理由が問題。大学の中期目標・中期計画と合わせて目標を出させるなど実効性のあるものにしなければならない。
- ・国立大学は文部科学省が監督しているし、私立大学は各大学で取り組んでいる。それをチェックできるような組織を作ってはどうか。男女共同参画に関するデータベースを作るとか、評価の方法を議論することはできるであろう。
- ・男女共同参画の取組を大学評価の一つの要素に入れることが考えられる。金銭的支援を受けたところは毎年レポートを提出している。その評価に男女共同参画を入れるのがよいと思う。
- ・「第4次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方」はプロセスの重視の記載となっているが、数字だけ増やして実施したでは意味がなく、

- 達成できない場合は要因を究明する委員会を設置して解決することが重要。
- ・ 大学評価という制度はある。男女共同参画に関する指標がしっかりとできればよいと思う。
 - ・ 男女共同参画がうまくいったところがあったら、会議を設けるなど他の大学に知ってもらえる機会を持つのがよいと思う。事例をまとめるとか、ワークショップをやるとか、してはどうか。情報の集め方や編集の仕方を変えて、男女共同参画の関係者以外にみてもらうことが重要。
 - ・ 現実問題として、男女共同参画の施策はプライオリティで他の施策に負けている。男女共同参画の施策がトップになるような提言を打ち出さないといけない。
 - ・ 男子学生が多い工学部は偏差値が落ちている。女子学生が入ってくるところは偏差値が変わらない。それを大学は知っていて女子学生を募集している。
 - ・ 男女共同参画のためには、ジェンダー・センシティブなデータは必要。ヨーロッパでは男子学生の学力低下が問題になっているが、日本では可視化したがない。
 - ・ 実際には、家庭教育や社会環境が問題。
 - ・ 教師や親に偏見があるので、例えば、中学生の教科書にすばらしい女性を半分以上掲載してはどうか。
 - ・ 企業は、女性比率が上がると業績がよくなる。大学も、外国人と女性を入れる取組を始めている。日本の大学は、アジア中でも女性比率では負けている。論文発表数、引用数も落ちている。逆に、外国人教員、外国人留学生を受け入れているシンガポールは増えている。大学別、学部別にジェンダーの違いを調査したら有意義。
 - ・ やはり知らないということは問題。数値目標を達成すればよい訳ではなく、何が成功かが重要。こういうことを解決しないと国際的にたちいなくなるということは上の人は知っているが、下の人をどうするか。女子中学生に科学者になっても良いことがあることを教えるのも大切だが、男子学生にメリットを認識させることも大切。
 - ・ 教育が必要な課題の例として、かつてセクハラがあった。セクハラに関しては、大学全体のコーディネイトを考える部署があり、データも集めている。男女共同参画にもそういう組織が必要。他の仕事をやりながら男女共同参画を議論するというのではやっていけないと思う。
 - ・ 資源がきちん配分されないと、組織を維持していくのは難しい。男女共同参画への取組が研究費の配分に効いてくるような制度にしないといけない。海外の事例をみることが必要。
 - ・ 自己実現した母親が子供を育てないといけない。倫理の問題は、研修を受

けさせられるし、受けられないと e-ラーニングで受講しないといけない。そういう制度が重要。

- ・インドは女性の数学者が多い。男は実業に行く。現在、我が国の研究者は足りているから男だけでよいのではないかということになるが、足りなくなるとこれではダメだということになる。
- ・東欧圏の研究者は女性が多く、男性は実業に行き、大学に残るのは女性。埋もれた潜在力を活用するのは産業だけでなく、学術も同じ。

(2) その他

- ・次回は、5月22日(金) 10:00~12:00
- ・次々回は、6月18日(木) 午後又は6月19日(金) 10:00~12:00 で日程調整
- ・7月24日(金) 幹事会に提言(案)を提出予定

以上